

## 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程）

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education

- 博士（体育スポーツ学）
- Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

筑波大学と鹿屋体育大学の大学体育スポーツに関する教育研究実績を活かし、大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力及びマネジメント能力を兼ね備え、現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える学術的職業人としての高度な体育・スポーツの指導者・リーダーを養成する。

|         |  |
|---------|--|
| 養成する人材像 | <ul style="list-style-type: none"><li>- 大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力及びマネジメント能力を持つ人材。</li><li>- 大学体育スポーツ現場の実践知を探求し、その研究成果を教育や運営へと循環させることができる実践的研究能力を持つ人材。</li><li>- 高等教育における体育スポーツ教育の質保証を先導する高度指導者・リーダーに必要な教養を持つ人材。</li></ul> |
| 修了後の進路  | 高等教育機関（大学・短大・高専）における体育教員、体育スポーツ関連機関の職員など   |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する3年制博士課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（体育スポーツ学）の学位を授与する。

|       | コンピテンス                                       | 評価の観点   | 対応する主な学修  |
|-------|--|---|---|
| 知識・能力 | 1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知識を創成する能力             | ①新たな知の創成といえる研究成果等があるか<br>②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか  | 大学体育研究演習、体育スポーツ実践的研究方法論、体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ、博士論文課題演習Ⅰ／Ⅱ、最先端スポーツ科学理論  |
|       | 2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力 | ①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか<br>②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的視野から解決する能力はあるか                                | 大学体育論、大学体育授業演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ、体育スポーツ実践的指導演習、大学スポーツマネジメント演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ、コーチングの哲学と倫理   |
|       | 3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力     | ①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質をわかりやすく倫理的に説明することができるか<br>②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか | 大学体育研究演習、大学スポーツマネジメント演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ、国際インターンシップ、コーチングの哲学と倫理、Presentation for General Audiences、体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ |
|       | 4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力            | ①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか<br>②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか                                      | 大学スポーツマネジメント演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ、コーチングの哲学と倫理、体育スポーツ実践的指導演習   |
|       | 5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲               | ①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか<br>②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか   | 大学体育研究演習、国際インターンシップ、Presentaion for General Audiences、地球規模課題と国際社会   |
|       | 6. 実践的教育能力：大学体育スポーツの指導現場における教育実践能力           | ①対象者の特性に配慮した適切な授業やトレーニングの実施計画が立案できるか<br>②立案した計画を実施、検証、改善する能力があるか  | 大学体育論、大学体育授業演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ、体育スポーツ実践的指導演習   |

|               | コンピテンス  | 評価の観点   | 対応する主な学修   |
|---------------|---|---|--|
| 知識・能力         | 7. 実践的研究能力：大学体育スポーツ現場における事象を対象として、実践的かつ有用な研究を実施する能力   | ①オリジナリティが高く、有益な研究テーマを設定できるか<br>②的確な仮説の創出と論理的かつ客観的な仮説の検証が行えるか        | 大学体育研究演習、体育スポーツ実践的研究方法論、体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ / Ⅱ / Ⅲ、大学スポーツマネジメント演習Ⅰ / Ⅱ / Ⅲ、博士論文課題演習Ⅰ / Ⅱ、最先端スポーツ科学理論 |
|               | 8. 倫理観：体育・スポーツ・健康・コーチング分野の基礎的な研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理的知識と倫理観   | ①指導・研究対象の人権を尊重し、常に公平公正な指導が行えるか<br>②社会的規範を遵守し、指導者・研究者としての自覚を常に持っているか | 大学体育研究演習、体育スポーツ実践的研究方法論、博士論文課題演習Ⅰ / Ⅱ、国際インターンシップ、コーチングの哲学と倫理、応用倫理、環境倫理学概論                        |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって以下の段階毎に学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。達成度評価の段階・方法を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 学修成果の評価は、学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を「達成度評価表（ルーブリック）」により、確認・評価をすることで行う。</li> <li>- 第一段階（1年次秋学期末）：博士論文研究能力の達成度審査である Qualifying Examination（中間審査）において、全研究指導担当教員がルーブリックに基づき審査を行う。</li> <li>- 最終段階：博士論文研究審査会において、学位論文審査委員会の大学体育スポーツ高度化共同専攻の教員がルーブリックに基づき審査を行い、教育会議において全教員で最終達成度審査を行う。</li> </ul> |   |  |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| <p><b>学位論文に関する評価の基準</b></p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマ及び研究内容の独創性                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 研究テーマ、問題設定、研究方法、考察・結論等に独創性が認められる。</li> <li>イ 研究成果は、現場への有用性や学界への貢献等、学術的・社会的意義が明確である。</li> </ul> </li> <li>2. 研究デザイン                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 研究テーマに沿って問題が適切に設定され、それを受けて論述が適切に展開されている。</li> <li>イ 論理に一貫性があり、結論が明確に導き出されている。</li> </ul> </li> <li>3. 研究方法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 研究テーマ・目的及び問題設定に対して適切な研究方法が選択されている。</li> <li>イ 研究方法を深く理解し、資料・データの適切な収集・取扱いや分析法を習得している。</li> <li>ウ 結果の解釈、考察は妥当である。</li> <li>エ 倫理的配慮がなされている。</li> </ul> </li> <li>4. 当該研究領域に対する理解                     <ul style="list-style-type: none"> <li>先行研究や当該分野の研究動向、関連研究について、幅広くかつ的確に理解している。</li> </ul> </li> <li>5. 論文の構成・体裁                     <ul style="list-style-type: none"> <li>緒言、方法、結果、考察、結論等の構成と内容、引用の方法及び注・文献の示し方等が適切であり、学術論文としての体裁が整っている。</li> </ul> </li> <li>6. 審査の体制、審査方法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>学位論文審査委員会は主査1名と副査3名以上（他専攻教員1名を含む）の合計4名以上で構成される。主査または副査のいずれか1名は、主指導教員及び副指導教員に含まれない他専攻所属教員とする。学位論文審査委員会では学位論文の概要を30分で発表し、その後質疑応答を行い、申請者の単位取得の確認と合わせて、学位論文に係る評価の基準を満たしているか審査を行う。</li> </ul> </li> </ol> |
|-----------------------------|--|

**教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy**

実践的教育能力と実践的研究能力の養成を目的として、遠隔講義システムを利用しながら、筑波大学と鹿屋体育大学の双方の教育・研究資源を活用できるよう、下記のような教育課程を編成する。

|                         |   |
|-------------------------|---|
| <p><b>教育課程の編成方針</b></p> | <p>教育課程は、4つの科目群「実践的教育能力育成科目」「実践的研究能力育成科目」「高度指導者教養育成科目」「博士論文研究能力育成科目」より構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「実践的教育能力育成科目」：大学体育や大学スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力及びマネジメント能力を身につける。</li> <li>- 「実践的研究能力育成科目」：大学体育や大学スポーツ現場の実践知を探求し、その研究成果を教育へと循環させることができる実践的研究能力を身につける。</li> <li>- 「高度指導者教養育成科目」：大学体育や大学スポーツを先導する指導者・リーダーとして必要な教養を身につける。</li> <li>- 「博士論文研究能力育成科目」：実践的研究論文や博士論文研究計画書の作成力やプレゼンテーション力、高度な大学体育スポーツ指導者・リーダーとして求められる実践的研究力を身につける。</li> </ul> |
|-------------------------|---|

|                         |   |
|-------------------------|---|
| <b>学修の方法<br/>特色的な教育</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 主に1・2年次において実践的教育能力、実践的研究能力、高度指導者教養とともに、博士論文課題演習を履修する。</li> <li>- 2年次5月以降に、博士論文研究能力の到達度審査として実施される Qualifying Examination に合格した者が博士論文の執筆に着手する。</li> <li>- 3年目に博士論文を作成し、審査に合格した者は博士の学位を取得する。</li> </ul> |
|-------------------------|---|

**入学受入れの方針 / Admission Policy**

|               |  |
|---------------|--|
| <b>求める人材</b>  | <p>大学体育・大学スポーツの教育指導や組織運営現場における問題解決のための実践的教育・運営・研究能力獲得に高い意欲を持つとともに、修士課程（専攻領域問わず）を経るなど一定水準の学術的研究能力を身につけた人材を求める。</p>  |
| <b>入学選抜方針</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 書類審査（150点）：研究計画、研究実績、指導実績（運営実績を含む）、教育実績の評価</li> <li>- 口述試験（100点）：研究計画のプレゼンテーション、質疑応答</li> <li>- 英語（TOEIC または TOEFL スコア：50点に換算）</li> </ul> |

**学修支援体制 / Learning Support Framework**

|                       |   |
|-----------------------|---|
| <b>学修支援</b>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 鹿屋体育大学の副査を含む指導体制により、研究指導の客観性と多様性を確保する。</li> <li>- 体育系研究倫理講習会及び大学体育研究演習を通じて研究倫理の理解と研究倫理申請の方法を支援する。</li> <li>- 1年生から3年生の所属年次の学生に対して「学位論文研究セミナー（春学期開催）」、「研究報告会（秋学期開催）」での発表機会の提供と教員・学生間のフィードバックの機会を設け研究を支援する。</li> <li>- 所属年次以外の学生に対して「研究報告会（秋学期開催）」での発表機会の提供と教員・学生間のフィードバック機会を設け研究を支援する。</li> </ul> |
| <b>学生同士の<br/>交流機会</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 合宿形式で実施する「つくば実習（春学期開催）」を開講し、学生相互の模擬授業を通じた交流の機会を設け、学生の学修意欲と授業実践の質の向上を図る。</li> </ul>   |
| <b>教員との交流機会</b>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 主査、副査による「学位論文研究セミナー（春学期開催）」と、全学生・全教員が参加する「研究報告会（秋学期開催）」を実施し、学生と教員がディスカッションを行う機会を設けることで、研究の質を高める。</li> <li>- 人間総合学術院が主催する「学生の集い（秋学期開催）」への参加を通じて、専門の枠を越えた学生間の交流を促進し、学修意欲のさらなる向上を目指す。</li> <li>- 教員主催の研究会や研究プロジェクトへの参画を推進し研究への興味関心を高める。</li> </ul>  |

### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 授業評価アンケートを実施し、その結果を運営委員会で確認し、各教員が授業改善に役立てる。
- 学生の達成度評価（客観的評価）結果を実指導教員と教育委員会で確認し、運営委員会で報告する。
- 修了後の就職先に対するアンケート調査を実施し、専攻の教育成果に対する社会的評価を運営委員会で確認し、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。
- 大学体育・スポーツの課題の解決や授業改善のために、FD委員会を設置し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、専攻の目的達成に向けた体制を強化する。